

# いきいき農業者

⑭

【埼玉】川島町でニンジンなど野菜を約4畝で作る芹澤農園代表の芹澤健さん(38)は、元特別支援学校の教諭。芹澤さんは教諭時代、特別支援学校生徒の就職先の選択肢の少なさを痛感した。何とか子どもたちの就職先の幅を広げることができないものかと考えた末、教諭を辞め就農し、自らが経営者となった。芹澤さんは、昔の教え子を2020年に雇用した。教え子が働きやすい環境作りも行った。ゆくゆくは完全にはなくても、自立した営農ができる姿をめざしている。

川島町 芹澤 健さん

## 特別支援学校教諭から農業へ

### 教え子雇い、就職先自ら作る

同時に行う③次に何をするか考えて行動する――の三つを実践している。

昨年は二人でナスを栽培したが、2年目の今年は約1・5畝を教え子に任せてみた。「どうすればおいしい野菜が作れるのか、自分自身で考え、実践してほしい」と芹澤さんはいう。

「失敗をしてもいいから、自由に農業に向き合ってほしい」と考える芹澤さん。「知的障がいがあっても、こんなことができるんだ」ということを、社会や企業に知ってほしい」と話す。



にんじんジュースとビーツのコーラを手に芹澤さん

「障がいがある子どもたちが働ける場のモデル作りをしていきたい。企業が雇用し、自分の農場で作業してもらおう仕組み作りも考え始めている」と話す。芹澤さんは最初の志を忘れずに、これからも歩んでいく。